

SRX 5800 サービス ゲートウェイ 入門ガイド

2009-02-02
パーツ番号: 530-029238-01
改訂 01

このドキュメントは、SRX 5800 サービス ゲートウェイを設置する方法について説明します。

目次

このガイドについて	3
手順 1: 設置場所の準備	4
ラックマウントの要件	4
必要なツール	5
手順 2: 取り付け用ハードウェアの設置	6
4 本柱ラックまたはキャビネットに取り付け用ハードウェアを設置する	6
オープンフレーム ラックに取り付け用ハードウェアを設置	7
手順 3: デバイスの設置	8
リフトを使用したデバイスの設置	9
リフトを使用しないデバイスの設置	10
コンポーネントの取り外し	11
シャーシをラックまで持ち上げて設置	12
コンポーネントの再取り付け	13
手順 4: 外部装置および IOC ケーブルの接続	13
帯域外管理用のネットワークへの接続	13
管理コンソールの接続	14
IOC ケーブルの接続	14
手順 5: 接地ケーブルおよび電源ケーブルの接続	15
接地ケーブルの接続	15
AC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続	15
DC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続	17
手順 6: 初期ソフトウェア構成	19
安全上の注意	24

NEBS のコンプライアンス ステートメント	25
EMC 要件のコンプライアンス ステートメント	25
カナダ	25
欧州連合	25
J シリーズ サービス ルーターおよび SRX シリーズ用 JUNOS ソフトウェア ドキュメント	26
テクニカル サポートの要求	27
改訂履歴	29

このガイドについて

このガイドは、SRX 5800 サービス ゲートウェイを素早く設置し構成するために必要な情報を含んでいます。 詳細な設置手順は <http://www.juniper.net/techpubs/> にある *RX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。



警告: このガイドの 24 ページの「安全上の注意」には、安全警告の要約が記載されています。 訳を含む、このデバイスの警告の完全なリストは、<http://www.juniper.net/techpubs/> にある *SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。

SRX 5800 サービス ゲートウェイは、マルチ プロセッサ アーキテクチャを備えた高性能で拡張可能な、キャリア クラスのセキュリティ デバイスです。 サービス ゲートウェイは、全二重で最高毎秒 120 ギガビット (Gbps) の性能を備えています。 デバイスの高さは 16 ラック ユニット (RU) 分あります。 3 台のデバイスを単一の床から天井までのラックに積み重ね、床面積当たりのポート密度を高めることができます。 デバイスにはスロットが 14 個あり、非冗長なファブリック構成で最高 14 個のサービス処理カード (SPC) と I/O カード (IOC)、さらには 2 つのスイッチ制御ボード (SCB) を設置できます。

IOC と SPC の異なる組み合わせを設置することによって、ネットワークに適するように、ギガビット ポートの数および最大セキュリティ処理能力の両方を調整できます。 3 ページの表1は、SRX 5800 の最小システム構成を説明します。

表1: 最小システム構成

コンポーネント	最小
SPC	1
IOC	1
SCB	2
ルーティング エンジン	1

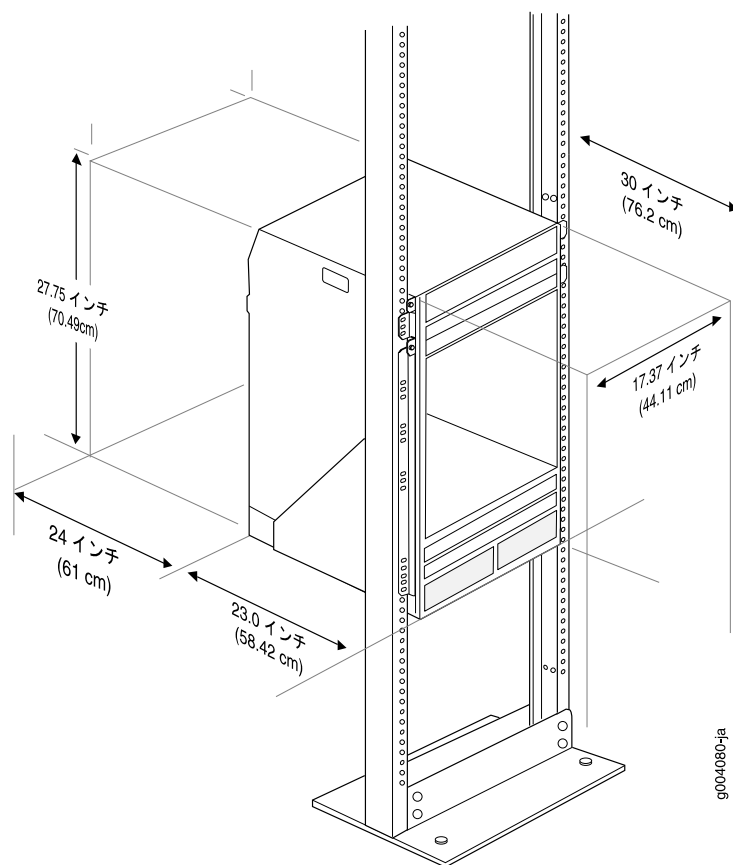
最大構成では、デバイスは最高で 440 ギガビット イーサネットまたは 10 ギガビット イーサネット ポートを 44 個提供します。 2 つのタイプの IOC インターフェイス カードが利用できます。 各カードは、4 つの packets 転送エンジンから構成されて、10 Gbps のスループットが可能です。 サービス ゲートウェイでは IOC のタイプを任意に組み合わせて設置できます。

SRX 5800 は冗長性と弾力性を提供します。 電源装置と SCB を含め、ハードウェア システムは完全に冗長です。

サービス ゲートウェイは、木製パレットにしっかりとストラップで固定された段ボール箱で出荷されます。プラスチック製のストラップは、適所に上部と下部を固定します。デバイスのシャーシは、このパレットにボルトで固定されています。クイック スタート設置ガイドおよび段ボール製のアクセサリ ボックスも運送用コンテナに含まれています。

手順 1: 設置場所の準備

図 1: ラックのすきまとシャーシの寸法



ラックマウントの要件

- デバイスは、4 本柱のラックまたはキャビネット、あるいはオープンフレーム ラックに設置できます。
- ラック レールの幅は、デバイス シャーシの外部寸法を収容するだけ広くなければなりません: 高さ 27.75 インチ (70.49 cm)、奥行き 23.0 インチ (58.42 cm)、幅 17.37 インチ (44.11 cm)。取り付け金具の外側の端は、幅 19 インチ (48.3 cm) に達します。
- ラックは、完全に構成されたデバイスの重量、最高 350 ポンド (158.76 kg) を支持するのに十分な強度を持つ必要があります。1 つのラックに 3 台の完全に構成されたデバイスを積み重ねた場合、約 1,050 ポンド (476.3 kg) を支持できる必要があります。

- サービスマンがハードウェア コンポーネントを取り外したり設置したりするために、デバイスの前面および背面に十分なスペースがなければなりません。デバイスの前面には最低 30 インチ (76.2 cm)、背面には最低 24 インチ (61 cm) のスペースを確保してください。
- ラックまたはキャビネットには、冷却用空気を十分に供給する必要があります。
- シャーシからの熱い排気が、デバイスへ再循環することなく、キャビネットから排気されるようにしてください。
- デバイスは、建物に固定されたラックに設置しなければなりません。
- デバイスがラック中の唯一のユニットである場合、ラックの一番下に取り付ける必要があります。
- デバイスを一部がすでに使用されているラックに取り付ける場合、下から上へとラックを使用し、最も重いコンポーネントがラックの一番下に来るようにします。

必要なツール

サービス ゲートウェイを開梱し、設置の準備をするために、以下のツールが必要です:

- メカニカル リフト - 推奨
- プラスねじ回し、No. 1 および 2
- 2.5 mm マイナスねじ回し
- 3/8 インチのナット ドライバ
- 1/2 インチ または 13 mm のオープンエンド スパナまたはソケット レンチ (輸送パレットからブラケット ボルトを取り除くため)
- 静電放電 (ESD) リスト ストラップ
- 静電防止マット

手順 2: 取り付け用ハードウェアの設置

取り付け用ハードウェアを 4 本柱のラックまたはキャビネット、あるいはオープンフレーム ラックに設置するには、以下の手順を行います:

- 4 本柱ラックまたはキャビネットに取り付け用ハードウェアを設置する6ページ
- オープンフレーム ラックに取り付け用ハードウェアを設置7ページ

4 本柱ラックまたはキャビネットに取り付け用ハードウェアを設置する

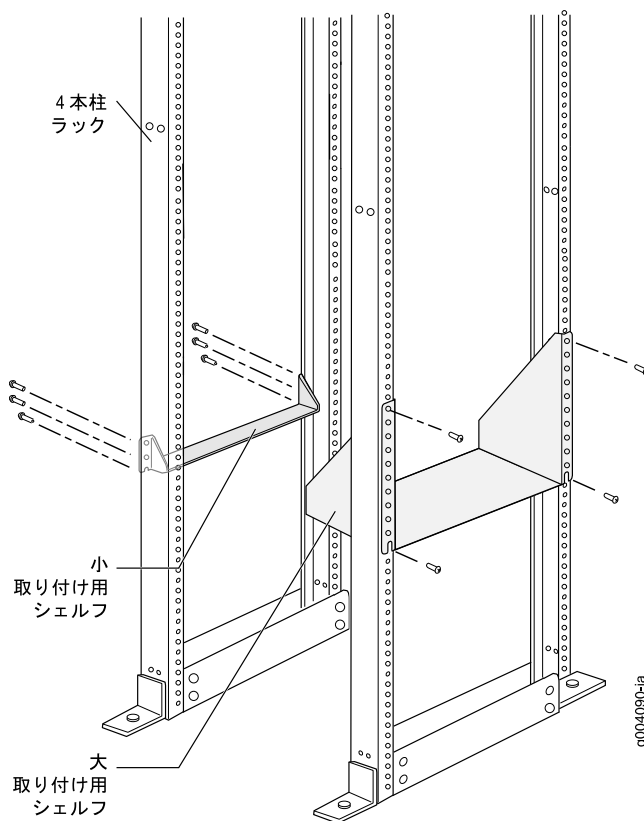
取り付け用シェルフを取り付けるには:

1. 前面ラック レールで、6ページの表2の大きなシェルフに指定された穴に ケージ ナットを取り付けます。
2. 各前面ラック レールの前で、一番下の ケージ ナットを取り付けた穴に取り付けねじを部分的に挿入します。
3. 前面ラック レールに大きなシェルフを取り付けます。 取り付けねじの上に各耳の下スロットを置きます。
4. 大きなシェルフの各耳の一番上の穴に取り付けねじを部分的に挿入します。
5. ねじをすべて完全に締めます。
6. 背面ラック レールで、6ページの表2の小さなシェルフに指定された穴に ケージ ナットを取り付けます。
7. 各後部ラック レールの後ろで、一番下の ケージ ナットを取り付けた穴に取り付けねじを部分的に挿入します。
8. 背面ラック レールに小さなシェルフを取り付けます。 取り付けねじの上に各耳の下スロットを置きます。 小さなシェルフは、背面レールの後ろに取り付けられ、ラックの中心へと伸びます。 小さなシェルフの下部は、大きなシェルフの下部と整列します。
9. 小さなシェルフの耳にある穴にねじを部分的に挿入します。
10. ねじをすべて完全に締めます。

表2: 4 本柱ラックまたはキャビネットの取り付け穴の位置

穴	「U 字」部分から上の距離		大きなシェルフ	小さなシェルフ
3	1.51 インチ (3.8 cm)	0.86 U		X
2	0.88 インチ (2.2 cm)	0.50 U	X	X
1	0.25 インチ (0.6 cm)	0.14 U		X

図 2: 4 本柱ラックまたはキャビネット向けの取り付け用ハードウェア



オープンフレーム ラックに取り付け用ハードウェアを設置

1. 各ラック レールの後ろに、7ページの表3で指定された一番上の穴に取り付けねじを部分的に挿入します。
2. ラックに大きなシェルフを取り付けます。大きなシェルフ フランジの最上部の近くにある鍵穴スロットを使用して、取り付けねじの上にシェルフをぶら下げます。
3. 大きなシェルフの耳にある穴にねじを部分的に挿入します。
4. ねじをすべて完全に締めます。

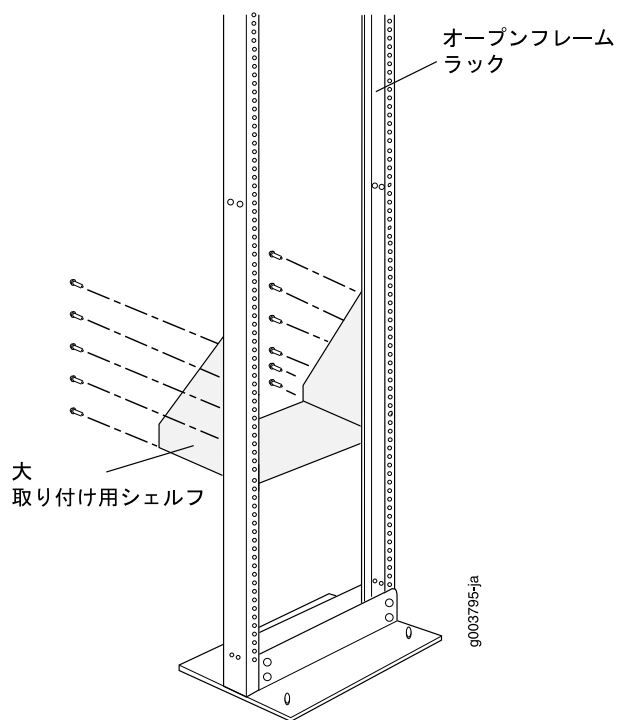
表3: オープンフレーム ラックの取り付け穴の位置

穴	「U 字」部分から上の距離	
30	17.26 インチ (43.8 cm)	9.86 U
27	15.51 インチ (39.4 cm)	8.86 U
24	13.76 インチ (34.9 cm)	7.86 U
21	12.01 インチ (30.5 cm)	6.86 U

表3: オープンフレーム ラックの取り付け穴の位置 (続き)

穴	「U 字」部分から上の距離	
18	10.26 インチ (26.0 cm)	5.86 U
15	8.51 インチ (21.6 cm)	4.86 U
12	6.76 インチ (17.1 cm)	3.86 U
9	5.01 インチ (12.7 cm)	2.86 U
6	3.26 インチ (8.3 cm)	1.86 U
3	1.51 インチ (3.8 cm)	0.86 U
2	0.88 インチ (2.2 cm)	0.50 U

図 3: オープンフレーム ラック向けの取り付け用ハードウェア



手順 3: デバイスの設置

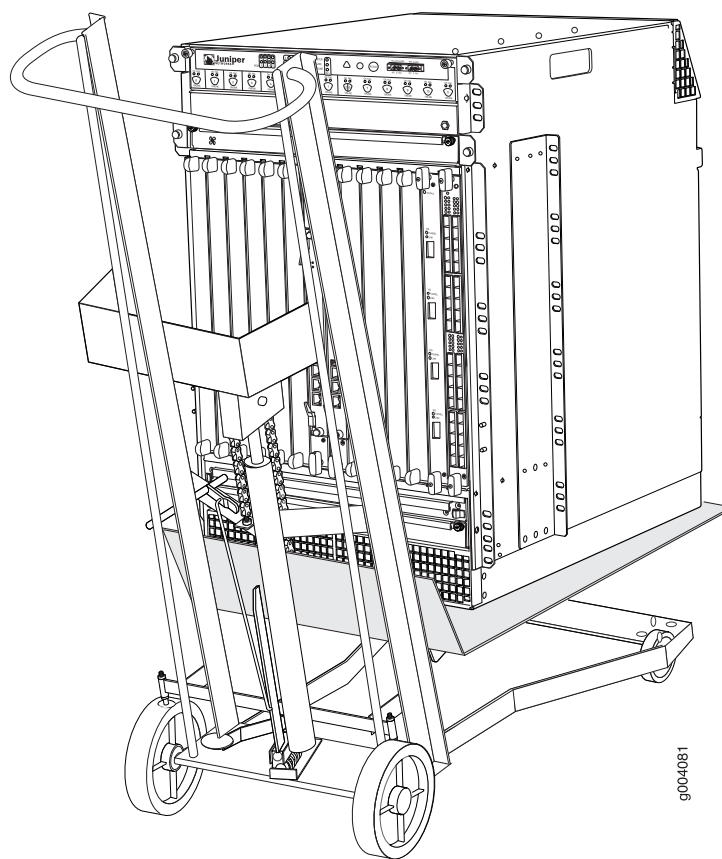
デバイスのサイズおよび重量のため、メカニカル リフトを使用してデバイスを設置することを推奨します。デバイスを設置するための手順は、メカニカル リフトを使用するかどうかにより異なります:

- リフトを使用したデバイスの設置9ページ
- リフトを使用しないデバイスの設置10ページ

リフトを使用したデバイスの設置

1. ラックがその永続的な場所があり、建物に固定されていることを確認します。設置場所に気流と保守の両方のための十分なすきまがあることを確認します。詳細は、SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド を参照してください。
2. リフトにデバイスを載せ、リフトのプラットフォームに確実に載っていることを確認します (9ページの図4 を参照)。

図 4: リフトにデバイスを載せる



3. リフトを使用して、ラックまたはキャビネットの前にデバイスを配置し、取り付け用シェルフの前でデバイスが中央に来るようにします。
4. 取り付け用シェルフの表面から約 0.75 インチ (2 cm) 上までシャーシを上げ、シェルフのできるだけ近くに配置します。
5. 取り付け用シェルフ上にデバイスを注意深くスライドさせ、シャーシの底部と取り付け用シェルフが約 2 インチ (5 cm) 重なるようにします。
6. 取り付けブラケットまたは前部取り付けフランジがラック レールと接触するまで、取り付け用シェルフの上へシャーシを滑らせます。取り付けブラケットの穴とシャーシの前面取り付けフランジの穴が、ラック レールの穴と一致します。

7. ラックからリフトを移動します。
8. ラックと一致した取り付け穴のそれぞれに、下の穴から取り付けねじを取り付けます。
9. デバイスの位置を目視で検査します。 デバイスがラックに適切に設置されている場合、ラックの片側の取り付けねじはすべて、向かい側の取り付けねじと一列に並び、デバイスは水平であるはずですが。

リフトを使用しないデバイスの設置

メカニカル リフトを使用せずにデバイスを設置するには:

- コンポーネントの取り外し11ページ
- シャーシをラックまで持ち上げて設置12ページ
- コンポーネントの再取り付け13ページ

図 5: デバイスの前面から取り外すコンポーネント

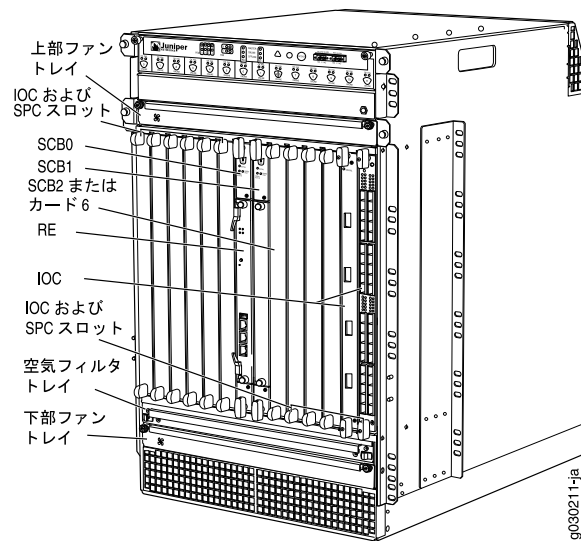
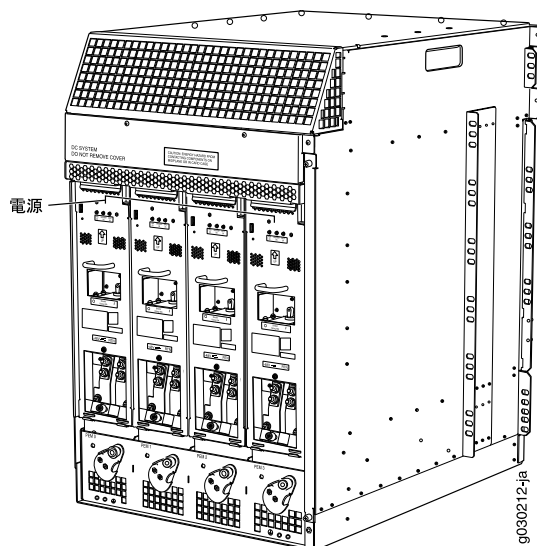


図 6: デバイスの前面から取り外すコンポーネント



コンポーネントの取り外し

デバイスを持ち上げる前に、次のコンポーネントを取り外す必要があります:

- 電源装置
- スイッチ制御ボード (SCB)
- I/O カード (IOC)
- サービス処理カード (SPC)
- ファントレイ

デバイスからコンポーネントを取り外すには:

1. はさまったり破損したりしないように、シャーシから各コンポーネントを水平に滑らせて取り出します。
2. 正しい場所に再取り付けできるように、取り外したら、各コンポーネントにラベルを付けます。
3. 取り外した各コンポーネントを直ちに静電気バッグに格納します。
4. 取り外したコンポーネントを積み重ねないでください。各コンポーネントを平らな面に置きます。



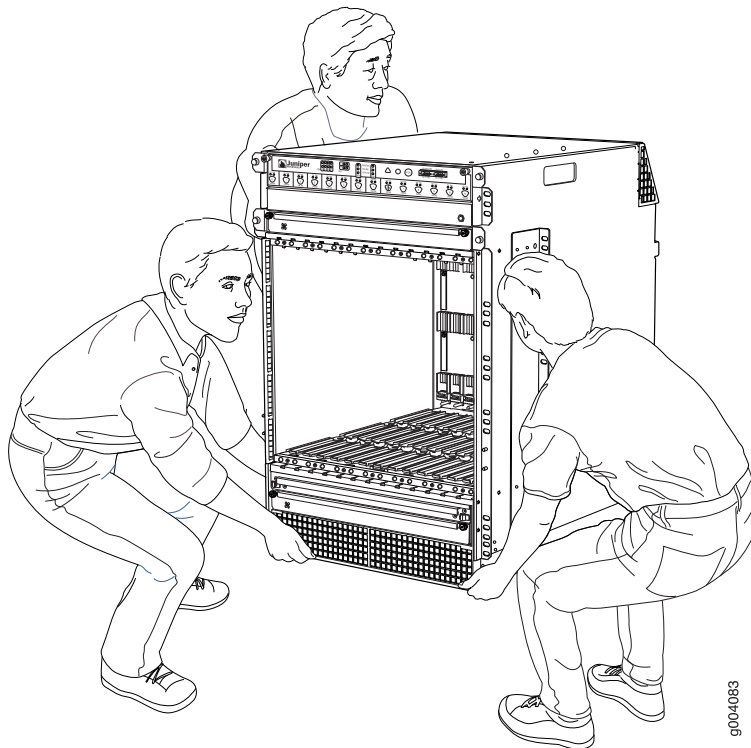
注: デバイス コンポーネントの取り外しについての詳細な指示は、SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド の「メカニカル リフトを使用しない サービス ゲートウェイの設置」を参照してください。

シャーシをラックまで持ち上げて設置

シャーシを持ち上げてラックに取り付けるには、3 人が必要です。空のシャーシは重量が約 150 ポンド (60.4 kg) あります。

1. ラックがその永続的な場所にあり、建物に固定されていることを確認します。
2. ラックまたはキャビネットの前にシャーシを配置し、取り付け用シェルフの前でデバイスが中央に来るようにします。利用可能な場合は、パレットジャックを使用します。
3. 両側に 1 人ずつと前面に 1 人で、シャーシの下を保持し、注意深く持ち上げて（設置されている場合）大小の取り付け用シェルフの上に載せます。
4. 取り付けブラケットまたは前部取り付けフランジがラック レールと接触するまで、取り付け用シェルフの上へシャーシを滑らせます。取り付けブラケットの穴とシャーシの前面取り付けフランジの穴が、ラック レールの穴と一致します。
5. オープンフレーム ラックにシャーシを設置するには、ラックと揃った取り付け穴のそれぞれに下の穴から取り付けねじを取り付けます。
6. シャーシの位置を目視で検査します。シャーシがラックに適切に設置されている場合、ラックの片側の取り付けねじはすべて、向かい側の取り付けねじと一列に並び、シャーシは水平であるはずです。

図 7: シャーシをラックまで持ち上げて設置



9004083

コンポーネントの再取り付け

1. はさまったり破損したりしないように、シャーシに各コンポーネントを水平に滑らせて取り付けます。
2. 各コンポーネントの拘束ねじを締めます。



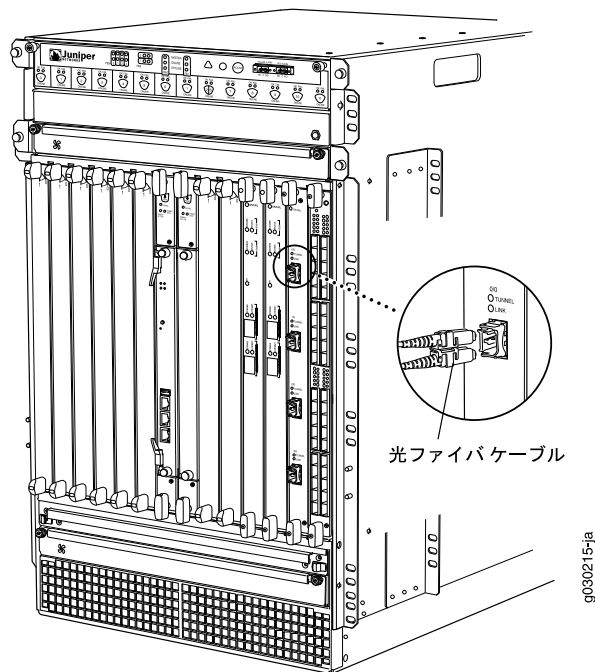
注: デバイス进行操作する前に、空スロットがすべてブランク パネルで覆われていることを確認します。

手順 4: 外部装置および 10G ケーブルの接続

外部装置および 10G ケーブルを接続するには、以下の手順を実行します:

- 帯域外管理用のネットワークへの接続13ページ
- 管理コンソールの接続14ページ
- 10G ケーブルの接続14ページ

図 8: 外部装置および 10G ケーブルの接続



帯域外管理用のネットワークへの接続

1. 管理デバイスへの電源をオフにします。

2. ルーティング エンジン上の適切な ETHERNET ポートに RJ-45 イーサネット ケーブルの一方の端を差し込みます。
3. ネットワーク デバイスにケーブルのもう一方の端を差し込みます。

管理コンソールの接続

1. 管理デバイスへの電源をオフにします。
2. シリアル ケーブルの RJ-45 側をルーティング エンジンの適切な CONSOLE または AUX ポートに差し込みます。
3. メスの DB-9 側をデバイスのシリアル ポートに差し込みます。

10C ケーブルの接続

1. 10C に使用する所定の長さのケーブルを用意します。ケーブルの仕様は、*SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。
2. 10C ケーブル コネクタ ポートにゴム製の安全プラグが設置されている場合は、プラグを取り外します。



警告：光ファイバ トランシーバの内部または光ファイバ ケーブルの端を直接のぞかないでください。光ファイバ トランシーバおよびトランシーバに接続された光ファイバ ケーブルは、目を傷つける可能性があるレーザー光線を放射します。



注意：ケーブルを挿入するか取り外す場合以外は、光ファイバ トランシーバの覆いを取ったままにしないでください。安全キャップはポートの汚れを防ぎ、レーザー光線への偶発的な暴露を防ぎます。

3. 10C フェースプレートのケーブル コネクタ ポートにケーブル コネクタを挿入します。
 4. ケーブルが外れたり、ストレス ポイントができないように、ケーブルをケーブル管理システムに配置します。ケーブルが床に垂れて自重がかからないような状態にケーブルを固定します。余分な長さのケーブルはコイル状に巻いてケーブル管理システムで整理します。ケーブルのループの形が崩れないよう、ファスナで固定します。
-



注意：最小屈曲半径を超えて光ファイバ ケーブルを曲げないようにします。直径で数インチより小さな弧にするとケーブルを傷つけ、診断が難しい問題の原因となる場合があります。



注意: 光ファイバ ケーブルをコネクタからぶら下がった状態にしておかないでください。ケーブルの固定されたループをぶら下がったままにしないでください。固定ポイントでケーブルに圧力がかかります。

手順 5: 接地ケーブルおよび電源ケーブルの接続

構成によって、デバイスは AC 電源または DC 電源のいずれかを使用します。デバイスの各電源装置に適切な手順を実行します:

- 接地ケーブルの接続15ページ
- AC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続15ページ
- DC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続17ページ

接地ケーブルの接続

1. 静電気放電 (ESD) 接地ストラップを手首に直に装着し、現場の承認された ESD 設置ポイントにストラップをつなぎます。現場の指示を参照してください。
2. 適切な接地点に接地ケーブルを接続します。
3. 資格を持つ電気技術者が、サービス ゲートウェイに付属のケーブル ラグを接地ケーブルに取り付けたことを確認します。
4. アースを接続する前に、接地面に汚れがなく、ブライト仕上げが行われていることを確認します。
5. 静電気放電 (ESD) 接地ストラップを手首に直に装着し、シャーシの ESD ポイントの 1 つにストラップをつなぎます。ESD の詳細は、SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド を参照してください。
6. 接地ポイントの上に接地ケーブル ラグを置きます。左のペアのサイズは M6 ねじ用で、右のペアのサイズは UNC 1/4-20 ねじ用です。
7. 最初にワッシャ、次にねじで、接地ポイントへ接地ケーブル ラグを固定します。
8. 接地の配線が正しいこと、接地ケーブルが、サービス ゲートウェイ コンポーネントに触れたり、そこへのアクセスを妨げていないこと、接地ケーブルは、人がつまずきそうな場所がないことを確認します。

AC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続



警告: 適切にデバイスをアースしてから、AC 電源コードを接続しなければなりません。

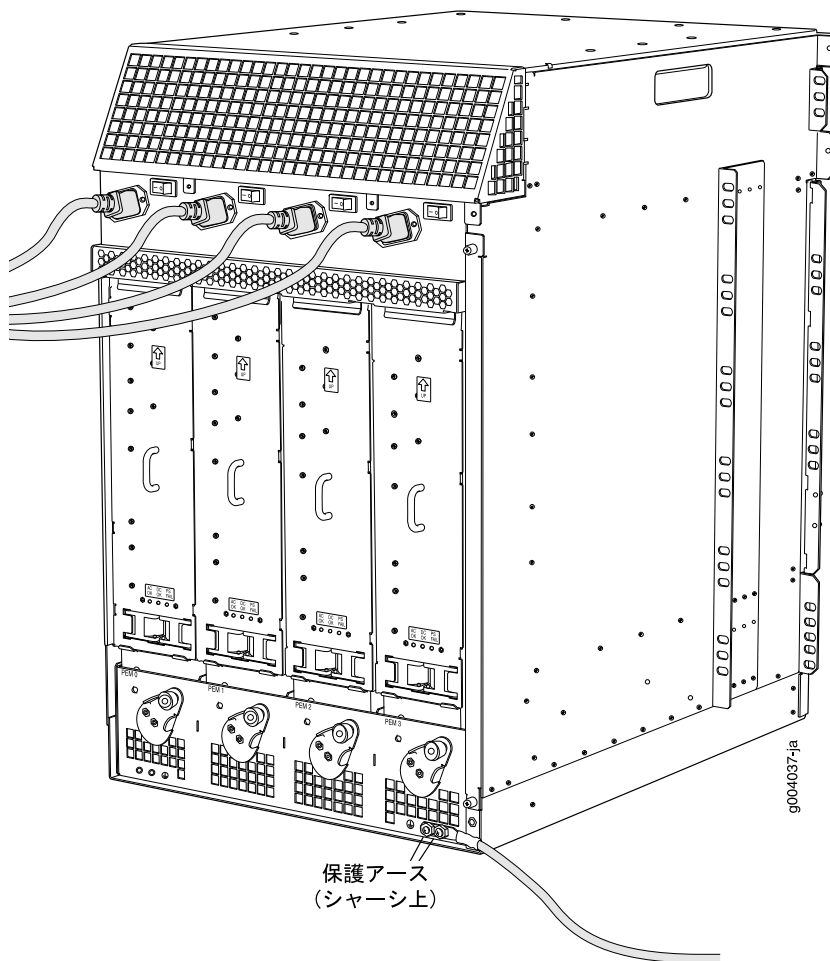
1. 静電気放電 (ESD) 接地ストラップを手首に直に装着し、シャーシの ESD ポイントの 1 つにストラップをつなぎます。ESD の詳細は、*SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。
2. デバイスに付属の電源コードを用意します。ユーザーの場所に適切なプラグが備わっているはずです。*SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。
3. 各電源について:
 - a. 電源の上の電源スイッチを OFF 位置 (0) に動かします。
 - b. 電源の上のアプライアンス差し込みに電源コードのアプライアンス コネクター側を挿入します。
 - c. 外部 AC 電源コンセントに電源コード プラグを挿入します。



注: 各電源は、専用の AC 電源フィードおよび専用の外部回路ブレーカに接続しなければなりません。最低 15 A (250 VAC) または、ユーザーの場所の規則で許される電源の使用を推奨します。

- d. 電源コードを適切に取り回します。電源コードが排気およびデバイスコンポーネントへのアクセスを遮らないこと、人がつまずくような場所がないことを確認します。

図 9: AC 電源をサービス ゲートウェイに接続



4. 各電源の AC スイッチを ON 位置 (-) に動かし、各電源のフェースプレート
の状態 LED を観察します。AC 電源が正しく取り付けられており正常に機能
している場合、AC OK および DC OK LED が点灯し、PS FAIL LED は消灯して
います。

電源が正常に機能していないことを状態 LED のどれかが示している場合は、
設置と配線の手順を繰り返してください。

DC 電源のサービス ゲートウェイへ電源を接続

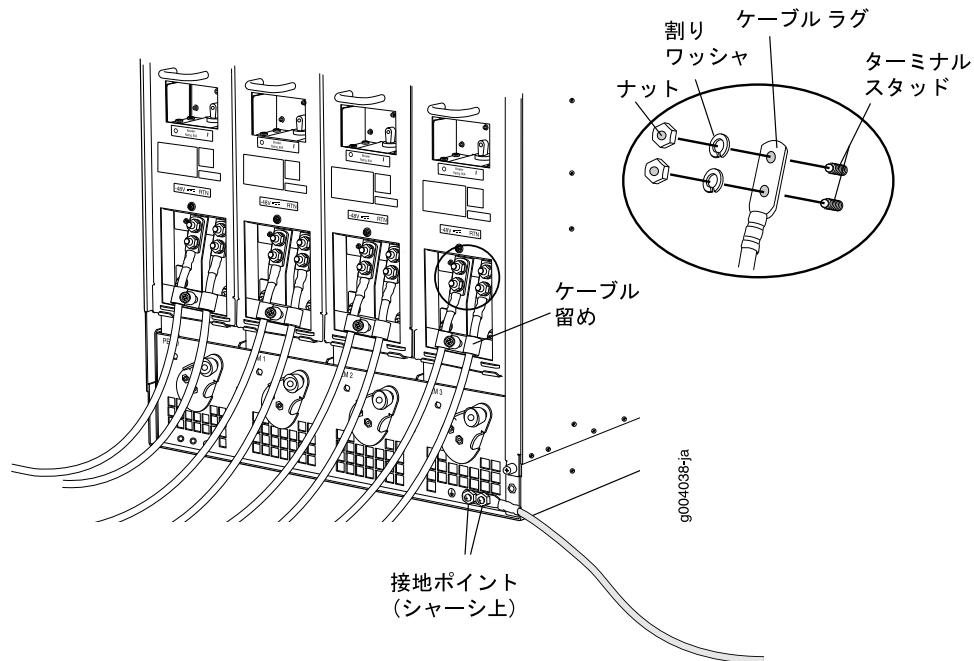


警告: 適切にデバイスをアースしてから、DC 電源コードを接続しなければなりません。

表4: DC 電源システム入力電圧

項目	仕様
DC 入力電圧	動作範囲: -40 ~ -72 VDC

図 10: DC 電源ケーブルの接続



注意: 電源接続が適切な極性を維持していることを確認します。極性を示すため、電源ケーブルに (+) および (-) のラベルが付いている場合があります。DC 電源ケーブルには標準の色分けはありません。ユーザーの場所で外部 DC 電源が使用している色分けが、各電源のターミナルの止め金具に付いている電源ケーブルのリードの色分けを決定します。

1. DC 電源ケーブル リードを横断した電圧が 0 V であり、ケーブル リードが設置の間にアクティブになる可能性がないことを確認します。
2. 静電気放電 (ESD) 接地ストラップを手首に直に装着し、シャーシの ESD ポイントの 1 つにストラップをつなぎます。ESD の詳細は、SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド を参照してください。
3. 各電源について:
 - a. 電源フェースプレート上のサーキット ブレーカを OFF 位置 (0) に動かします。
 - b. フェースプレート上のターミナルの止め金具を保護する透明なプラスチック製カバーを取り外します。

- c. プラス (+) の DC 電源ケーブル ラグを RTN (return) 端子に接続します。
 - d. 最初に割りワッシャで、次にナットで、電源のターミナル スタッドに電源ケーブル ラグを固定します。23 ポンド-インチ (2.6 Nm) ~ 25 ポンド-インチ (2.8 Nm) のトルクをかけます。
 - e. マイナス (-) の DC 電源ケーブル ラグを -48V (入力) 端子に接続します。
 - f. 最初に割りワッシャで、次にナットで、電源のターミナル スタッドに電源ケーブル ラグを固定します。23 ポンド-インチ (2.6 Nm) ~ 25 ポンド-インチ (2.8 Nm) のトルクをかけます。
 - g. フェースプレート上のターミナル スタッドに透明なプラスチック製カバーを取り付けます。
4. 静電気放電 (ESD) 接地ストラップを手首に直に装着し、現場の承認された ESD 設置ポイントにストラップをつなぎます。現場の指示を参照してください。
 5. 適切な外部 DC 電源に各 DC 電源ケーブルを接続します。



注: 外部 DC 電源への接続については、現場の指示を参照してください。

6. 外部回路ブレーカのスイッチをオンにして、DC 電源ケーブル リードに電圧を提供します。
7. 電源フェースプレート上のサーキット ブレーカを ON 位置 (I) に動かします。各電源フェースプレートの状態 LED を観察します。DC 電源が正しく取り付けられており正常に機能している場合、PWR OK、BRKR ON、および INPUT OK LED が緑色に点灯します。

手順 6: 初期ソフトウェア構成

この手順は、ネットワークにデバイスを接続しますが、トラフィックを転送することはできません。例を含めて、デバイスのトラフィック転送に関する詳細な情報は、適切な JUNOS ソフトウェア構成ガイドを参照してください。

ソフトウェアを構成するには:

1. まだの場合は、各電源のサーキット ブレーカまたはトグル スイッチを ON 位置にして、デバイスを起動します。電源フェースプレートの OK LED が、最初は点滅し、それから点灯するはずです。
2. ルート ユーザーとしてログインします。パスワードはありません。
3. CLI を起動します。

```
root# cli
root@>
```

4. 構成モードに入ります。

```

configure
[edit]
root@#

```

5. クリアテキストのパスワード、暗号化されたパスワード、または SSH 公開鍵文字列 (DSA または RSA) を入力して、ルート認証パスワードを設定します。

```

[edit]
root@# set system root-authentication plain-text-password
New password: パスワード
Retype new password: パスワード

```

6. デバイスで管理者アカウントを構成します。

```

[edit]
root@# set system login user admin class super-user authentication
plain-text-password

```

7. 管理者アカウント用のパスワードを構成します。

```

[edit]
root@# set system root-authentication plain-text-password

```

8. 構成をコミットして、デバイス上で有効にします。

```

[edit]
root@# commit

```

9. 手順 6 で構成した管理ユーザーとしてログインします。

10. デバイスの名前を構成します。名前にスペースがある場合は、名前を引用符 (“ ”) で囲んでください。

```

configure
[edit]
admin@# set system host-name ホスト名

```

11. デバイスのイーサネット インターフェースの IP アドレスおよびプレフィックス長を構成します。

```

[edit]
admin@# set interfaces fxp0 unit 0 family inet address アドレス/プレ
フィックス長

```

12. トラフィック インターフェースを構成します。

```

[edit]
admin@# set interfaces ge-6/2/0 unit 0 family inet address アドレス/プ
レフィックス長
admin@# set interfaces ge-6/3/5 unit 0 family inet address アドレス/プ
レフィックス長

```

13. デフォルト ルートを構成します。

```

[edit]
admin@# set routing-options static route 0.0.0.0/0 next-hop ゲートウェ
イ

```

14. 基本セキュリティ ゾーンを構成し、トラフィック インターフェースにバインドします。

```
[edit]
admin@# set security zones security-zone trust interfaces ge-6/3/5
admin@# set security zones security-zone untrust interfaces ge-6/2/0
```

15. 基本セキュリティ ポリシーを構成します。

```
[edit]
admin@# set security policies from-zone trust to-zone untrust policy
    ポリシー名 match source-address any destination-address any application
    any
root@# set security policies from-zone trust to-zone untrust policy ポ
    リシー名 then permit
```

16. 妥当性の構成をチェックします。

```
[edit]
admin@# commit check
configuration check succeeds
```

17. 構成をコミットして、デバイス上で有効にします。

```
[edit]
admin@# commit
commit complete
```

18. オプションで、正しいことを確認するために構成を表示します。

```
admin@# show

## Last changed: 2008-05-07 22:43:25 UTC
version "9.210 [builder]";
system {
  autoinstallation;
  host-name henbert;
  root-authentication {
    encrypted-password "$1$oTVn2KY3$uQe4xzQCxpR2j7sKuV.Pa0"; ## SECRET-DATA
  }
  login {
    user admin {
      uid 928;
      class super-user;
      authentication {
        encrypted-password "$1$cdOPmAcD$QvreBsJkNR1EF0uurTBkE."; ## SECRET-DATA
      }
    }
  }
}
services {
  ssh;
  web-management {
    http {
      interface ge-0/0/0.0;
    }
  }
}
syslog {
```

```
    user * {
        any emergency;
    }
    file messages {
        any any;
        authorization info;
    }
    file interactive-commands {
        interactive-commands any;
    }
}
license {
    autoupdate {
        url https://ae1.juniper.net/junos/key_retrieval;
    }
}
}
interfaces {
    ge-0/0/0 {
        unit 0;
    }
    ge-6/2/0 {
        unit 0 {
            family inet {
                address 5.1.1.1/24;
            }
        }
    }
    ge-6/3/5 {
        unit 0 {
            family inet {
                address 192.1.1.1/24;
            }
        }
    }
    fxp0 {
        unit 0 {
            family inet {
                address 192.168.10.2/24;
            }
        }
    }
}
}
routing-options {
    static {
        route 0.0.0.0/0 next-hop 5.1.1.2;
    }
}
}
security {
    zones {
        security-zone trust {
            interfaces {
                ge-6/3/5.0;
            }
        }
        security-zone untrust {
            interfaces {
                ge-6/2/0.0;
            }
        }
    }
}
}
```

```

policies {
  from-zone trust to-zone untrust {
    policy bob {
      match {
        source-address any;
        destination-address any;
        application any;
      }
      then {
        permit;
      }
    }
  }
}

```

19. 構成をコミットして、デバイス上で有効にします。

```

[edit]
admin@# commit

```

20. オプションで、必要な構成ステートメントを追加して、追加プロパティを構成します。次に、変更をコミットし、デバイス上でそれらを有効にします。

```

[edit]
admin@host# commit

```

21. デバイスの構成を終了したら、構成モードを終了します。

```

[edit]
admin@host# exit
admin@host>

```

安全上の注意



警告： 設置ガイドを参照してから、デバイスを接続してください。これは、安全上の注意の要約です。 訳を含む、このデバイスの警告の完全なリストは、<http://www.juniper.net/techpubs/hardware/> にある *RX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* を参照してください。



警告： デバイスのビル内ポートは、ビル内または露出しない配線にのみ適切です。 デバイスのビル内ポートは、OSP またはその配線に接続するインターフェースへ金属的に接続しないでください。 これらのインターフェースは、ビル内インターフェース (GR-1089-CORE, Issue 4 で説明されるような Type 2 または Type 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、露出した OSP 配線からの隔離が必要です。 1 次プロテクタの追加は、OSP 配線にこれらのインターフェースを金属的に接続するのに十分な保護ではありません。



注意： デバイスのコンポーネントの取り外しまたは取り付けの前に、ESD ポイントに ESD ストラップを付け、手首に直にストラップのもう一方の端を巻いてください。 ESD ストラップを使用しないと、デバイスが損傷する場合があります。

- 訓練を受け資格のあるスタッフのみが、デバイスの取り付けや交換を行ってください。
- このガイドまたは *SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* に説明された手順のみを実行します。他のサービスは、許可を得たサービスマンのみが行います。
- デバイスを電源に接続する前に、設置ガイドを読みます。
- デバイスを取り付ける前に、*SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* の場所の準備についてのガイドラインを読み、現場が、サービスゲートウェイの電源、環境、およびすきまの要件に合致することを確認します。
- 冷却システムが適切に機能するために、シャーシのまわりの気流が制限されてはいけません。側面冷却のルーター間に少なくとも 6 インチ (15.2 cm) のすきまを設けます。シャーシの側面と壁などの熱を発生しない面との間には 2.8 インチ (7 cm) のすきまを設けます。
- デバイスを取り付けるとき、勾配が10 度以上の傾斜路を使用しないでください。
- 手でデバイスを取り付けるには、持ち上げるのに 3 人が必要です。シャーシを持ち上げる前に、*SRX 5800 サービス ゲートウェイ ハードウェア ガイド* で説明されているように、コンポーネントを取り外し、設置用ハンドルを取り付けます。けがを防ぐため、背筋を伸ばして、腰を曲げずに脚を使って持ち上げます。電源ハンドルを持ってシャーシを持ち上げようとししないでください。
- デバイスがラック中の唯一のユニットである場合、ラックの一番下に取り付ける必要があります。

- デバイスを一部がすでに使用されているラックに取り付ける場合、下から上へとラックを使用し、最も重いコンポーネントがラックの一番下に来るようにします。
- ラックに安定装置が備えられている場合、安定装置を取り付けてから、ラックにデバイスを取り付けたり、デバイスを保守します。
- 電気部品の取り外しまたは取り付けのときは必ず、コンポーネント側を上にして、平らな帯電防止面上に置くか、または静電気バッグに入れます。
- デバイスを取り付けるとき、必ずアース接続を最初に行い、それを外すときは最後に行います。
- 適切なラグを使用して、DC 電源を配線します。電源を接続するとき、適切な配線順序は、アースからアース、+RTN から +RTN、そして -48 V から -48 V です。電源を切断するとき、適切な配線順序は、-48 V から -48 V、+RTN から +RTN、そしてアースからアースです。必ずアース線の接続を最初に行い、それを外すときは最後に行います。
- 雷雨の際には、システムでの作業またはケーブルの接続や切断を行わないでください。
- 電力線に接続されている装置で作業する前に、指輪、ネックレス、時計などの貴金属を取り外します。電源またはアースに接すると、金属が発熱し、重いやけどの原因となったり、端子に溶接されてしまう場合があります。
- これらの安全上の注意を守らないと、重傷を負う結果になる場合があります。

NEBS のコンプライアンス ステートメント

- この装置は、CBN (Common Bonding Network) の一部として設置するのに適切です。
- この装置は、NEC (National Electrical Code) が該当する場所での設置に適切です。
- GR-1089-CORE に定義されるように、バッテリーのリターン接続は、Common DC リターン (DC-C) として扱うことができます。

EMC 要件のコンプライアンス ステートメント

カナダ

このクラス A デジタル装置はカナダの ICES-003 に準拠します。Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

欧州連合

この装置は、情報処理装置等伝播障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。その場合、適切な対策を講ずるよう使用者に求められることがあります。

J シリーズ サービス ルーターおよび SRX シリーズ用 JUNOS ソフトウェア ドキュメント

26ページの表5は、拡張サービスを備えた JUNOS ソフトウェアを実行する J シリーズ サービス ルーター、および JUNOS ソフトウェアを実行する SRX シリーズ サービス ゲートウェイ用のソフトウェア マニュアルおよびリリース ノートを示しています。

ドキュメントはすべて <http://www.juniper.net/techpubs/> で利用可能です。

表5: J シリーズ サービス ルーターおよび SRX シリーズ用 JUNOS ソフトウェア ドキュメント

ブック	説明
すべてのプラットフォーム	
<i>JUNOS Software Interfaces and Routing Configuration Guide</i>	標準ルーティング プロトコル、ISDN サービス、ファイアウォール フィルタ (アクセス制御リスト) およびサービス クラス (CoS) トラフィック分類を備えた基本 IP ルーティングのために J シリーズおよび SRX シリーズ インターフェースを構成する方法について説明します。
<i>JUNOS Software Security Configuration Guide</i>	ステートフル ファイアウォール ポリシー、IPsec VPN、ファイアウォール スクリーン、ネットワークアドレス変換 (NAT)、公開鍵暗号化、シャーシ クラスタ、アプリケーション層ゲートウェイ (ALG)、および侵入検出・予防 (IDP) など、J シリーズおよび SRX シリーズのセキュリティ サービスを構成し管理する方法について説明します。
<i>JUNOS Software Administration Guide</i>	J シリーズおよび SRX シリーズのデバイスおよびルーティングの操作、ファイアウォールおよびセキュリティ サービス、システム アラームおよびイベント、およびネットワーク パフォーマンスを監視する方法を示します。さらに、このガイドは、ユーザー認証とアクセスの処理、ソフトウェアのアップグレード、よくある問題の診断を行う方法を示します。
<i>JUNOS Software CLI Reference</i>	J シリーズおよび SRX シリーズのデバイスで利用可能な完全な構成階層を示します。さらに、このガイドは、これらのデバイスに特有の構成ステートメントおよび動作モード コマンドを説明します。
<i>JUNOS Network Management Configuration Guide</i>	JUNOS ソフトウェアのエンタープライズ固有の MIB を説明します。このガイドの情報は、M シリーズ、T シリーズ、EX シリーズ、J シリーズおよび SRX シリーズのデバイスに適用可能です。
<i>JUNOS System Log Messages Reference</i>	JUNOS ソフトウェア モジュールが生成したシステム ログ メッセージにアクセスし解釈する方法を説明し、各メッセージの参照ページを示します。このガイドの情報は、M シリーズ、T シリーズ、EX シリーズ、J シリーズおよび SRX シリーズのデバイスに適用可能です。
J シリーズ サービス ルーターのみ	

表5: J シリーズ サービス ルーターおよび SRX シリーズ用 JUNOS ソフトウェア ドキュメント (続き)

ブック	説明
<i>JUNOS Software with Enhanced Services Design and Implementation Guide</i>	拡張サービスを備えた JUNOS ソフトウェアを実行する J シリーズ サービス ルーター上での IPsec VPN、ファイアウォール、およびルーティングを設計し実装するためのガイドラインと例を提供します。
<i>JUNOS Software with Enhanced Services Quick Start</i>	J シリーズ サービス ルーターを素早く セットアップする方法について説明します。このドキュメントは、ルーターの適合宣言を含んでいます。
<i>JUNOS Software with Enhanced Services Hardware Guide</i>	J シリーズのサービス ルーターの概要、基本的な指示および仕様を提供します。このガイドは、場所の準備、ルーターの開梱と設置、ルーター ハードウェアの交換、基本的なルーター接続の確立の方法について説明します。このガイドは、ハードウェアの説明と仕様を含んでいます。
<i>JUNOS Software with Enhanced Services Migration Guide</i>	ScreenOS ソフトウェアを実行する SSG デバイスまたは JUNOS ソフトウェアを実行する J シリーズ サービス ルーターを、拡張サービスを備えた JUNOS ソフトウェアに移行する手順を提供します。
<i>WXC Integrated Services Module Installation and Configuration Guide</i>	アプリケーションの高速化のため、J シリーズ サービス ルーターに WXC 統合サービス モジュールを設置し初期構成する方法について説明します。
<i>JUNOS Software with Enhanced Services Release Notes</i>	J シリーズ サービス ルーター上の拡張サービスを備えた JUNOS ソフトウェアの特定のリリースについて、J-Web インターフェースの機能および問題を含む、新しい機能および既知の問題を要約します。さらに、リリース ノートは、拡張サービスを備えた JUNOS ソフトウェアのためのマニュアルの訂正および更新、ならびにソフトウェアのアップグレードおよびダウングレードの指示を含んでいます。
SRX シリーズ サービス ゲートウェイのみ	
<i>JUNOS Software for SRX-series Services Gateway Release Notes</i>	SRX シリーズ サービス ゲートウェイ上の JUNOS ソフトウェアの特定のリリースについて、J-Web インターフェースの機能および問題を含む、新しい機能および既知の問題を要約します。さらに、リリース ノートは、マニュアルの訂正と更新およびソフトウェアのアップグレードおよびダウングレードを含んでいます。

テクニカル サポートの要求

製品のテクニカルサポートは、Juniper Networks 技術支援センター (JTAC) より利用可能です。お客様が、アクティブな J-Care または JNASC サポート契約を結んだ顧客である場合、または保証の対象であり販売後のテクニカル サポートが必要である場合、弊社のツールやリソースにオンラインでアクセスするか、または JTAC に相談できます。

- JTAC ポリシー弊社の JTAC 手順およびポリシーを完全に理解するには、<http://www.juniper.net/customers/support/downloads/710059.pdf> にある JTAC ユーザー ガイドを参照してください。
- 製品保証-製品保証に関する情報は、<http://www.juniper.net/support/warranty/> を参照してください。
- JTAC 業務時間-JTAC センターのリソースは、1 年 365 日、週 7 日、1 日 24 時間利用できます。

セルフヘルプ オンライン ツールおよびリソース

迅速で容易な問題解決のために、Juniper Networks は、次の機能を提供する、Customer Support Center (CSC) という名前のオンライン セルフサービス ポータルをデザインしました。

- CSC の製品を探す: <http://www.juniper.net/customers/support/>
- 既知のバグの検索: <http://www2.juniper.net/kb/>
- 製品ドキュメントを探す: <http://www.juniper.net/techpubs/>
- 弊社の知識ベースを使用してソリューションおよび質問への回答を探す: <http://kb.juniper.net/>
- ソフトウェアの最新バージョンをダウンロード、リリースノート参照: <http://www.juniper.net/customers/csc/software/>
- 関連するハードウェアおよびソフトウェアの通知を技術告示で検索: <https://www.juniper.net/alerts/>
- Juniper Networks コミュニティフォーラムに加入、参加: <http://www.juniper.net/company/communities/>
- CSC Case Manager でオンラインで問い合わせ: <http://www.juniper.net/cm/>

製品シリアルナンバーによるサービス資格を確認するには、<https://tools.juniper.net/SerialNumberEntitlementSearch/> にある弊社の Serial Number Entitlement (SNE) ツールを使用します。

JTAC への問い合わせ

JTAC への問い合わせは Web または電話でできます。

- <http://www.juniper.net/cm/> にある、CSC の Case Manager ツールを使用します。
- 電話 1-888-314-JTAC (1-888-314-5822、米国、カナダ、メキシコでは通話料無料)。

通話料無料番号のない国での国際電話またはダイヤル直通電話は、<http://www.juniper.net/support/requesting-support.html> を参照してください。

改訂履歴

February 2009–530–029238–01 Revision 01. Initial Release.

Copyright © 2009, Juniper Networks, Inc. All rights reserved.

Juniper Networks, the Juniper Networks logo, JUNOS, NetScreen, and ScreenOS are registered trademarks of Juniper Networks, Inc. in the United States and other countries. JUNOSe is a trademark of Juniper Networks, Inc. All other trademarks, service marks, registered trademarks, or registered service marks are the property of their respective owners.

Juniper Networks assumes no responsibility for any inaccuracies in this document. Juniper Networks reserves the right to change, modify, transfer, or otherwise revise this publication without notice.

Products made or sold by Juniper Networks or components thereof might be covered by one or more of the following patents that are owned by or licensed to Juniper Networks: U.S. Patent Nos. 5,473,599, 5,905,725, 5,909,440, 6,192,051, 6,333,650, 6,359,479, 6,406,312, 6,429,706, 6,459,579, 6,493,347, 6,538,518, 6,538,899, 6,552,918, 6,567,902, 6,578,186, and 6,590,785.